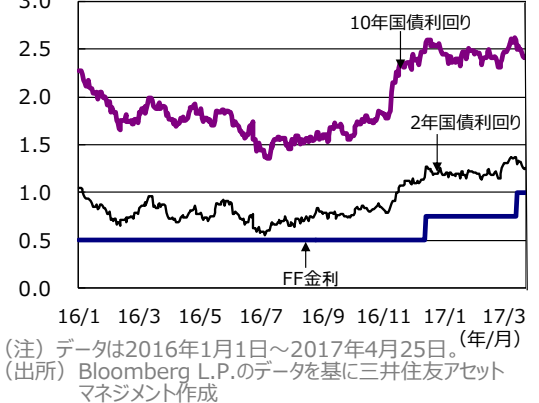


**今日のトピック 米国債券市場の動向（2017年4月）**  
**長期金利は、当面一進一退での展開を予想**

**ポイント1 国債利回りは年明け以降、一進一退  
利上げ実施するも、財政拡大懸念はやや縮小**

- 米国では、緩やかながらも景気は拡大基調にあります。そのような中で、3月には米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げが行われました。インフレは落ち着いているものの、今後も緩やかなペースで利上げを継続することや、量的緩和（国債やモーゲージ債の償還金再投資）の縮小も検討していくFRBの姿勢が示され、国債利回りの上昇要因となっています。
- 一方、政府と議会の関係はスムーズとは言えません。医療保険改革の頓挫もあり、政府が掲げるインフラ投資の増加や減税などの財政拡大に対する市場の期待は後退し、国債利回りの低下要因となっています。

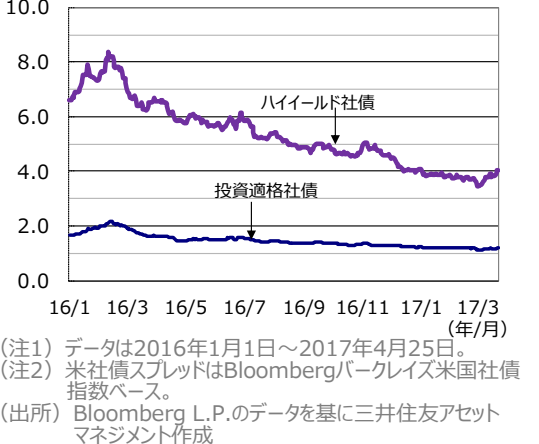
【米国の政策金利と国債利回り】



**ポイント2 社債の利回り差縮小は止まる  
投資家需要は根強いが、魅力度はやや低下**

- 米国の社債と国債の利回り差は、2016年春以降は縮小傾向にありました。それは、世界的に緩和的な金融環境、好調な米国景気や企業業績に加え、インフレが落ち着いていたことなどが要因です。
- しかし、年明け以降は利回り差の縮小傾向から、概ね横這いでの推移へと局面は変わってきています。投資家の社債全般への需要は根強いものの、ハイイールド債券の米国債との利回り差は約2年半ぶりの水準まで縮小しており、資金流入の減少が見受けられます。

【米国社債の対国債利回り差】



**今後の展開 米国債利回りや、社債と国債の  
利回り差は、当面一進一退を予想**

- 米国政府が検討している景気刺激策は、議会の審議によって大幅な財政悪化を避けるような規模に落ち着きそうです。また、インフレは当面落ち着いて推移する見通しであり、利上げのペースも緩やかと予想されるため、米国債の利回りは、当面一進一退での推移を予想します。
- 社債については、利回りの魅力度がやや低下し、信用リスクもありますが、国債の利回りが現状程度にとどまる中では、少しでも利回りの高い資産への需要は根強いと見込まれます。

**ここもチェック!** 2017年4月 6日 米国企業業績と株式市場の見通し  
2017年3月16日 米国の金融政策（2017年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。